1　行政と民間の垣根を超えた子育て支援プロジェクト

～チームで“やさしさあふれる丹後の子育て！”を実践～

丹後広域振興局　丹後保健所/企画振興室

【概　要】

○子育て支援については、行政機関や民間団体等それぞれで取組を進めていますが、「行政だけ」「民間だけ」では対応しきれない課題やニーズに直面しており、平成 21 年度からは保健所主催で、子育て支援の関係者を対象に「子育て支援フォーラム」を開催しました。

○各機関のもつ活動の力を強め、支援の輪を広げるため、平成 23 年度には地域力再生プラットフォームの手順を参考に、地域ぐるみでの子育て支援策のすすめ方を模索。

○意識の高い民間団体へのアプローチに重点を置いた取組を進めることで、保健所等が持つ専門性に、民間ならではの柔らかなアイデアやフットワークの軽さ等を組み合わせることが出来、民間と行政がそれぞれの力を発揮した子育て支援の仕組みづくりを進めました。

背　景

◇子育ての悩み・不安の増大と、各機関それぞれの取り組み

丹後地域では他地域に先行して過疎化と少子高齢化が進行しています。地域のつながりが強いようにみえても、要保護管理ケースは多く、虐待事案も発生しました。

また、少子化でも、クリニックや相談の利用希望は多く、発達や子育ての悩み、不安を抱える親が数多く存在します。そんな親を支援するため、保健・福祉・教育等の各機関では各種施策を展開し、また、地域ではサークルや団体等の活動が増加し、地域力再生事業等を活用した子育て支援策も活発に実施されるようになってきました。しかし、これらは、各領域内や各市町内にとどまり、支援者や行政等がお互いの活動を情報交換する機会や、共に学ぶ場が少ないのが現状です。

↑公費助成を受けた子育て支援団体の学習会の様子。

◇各機関の顔の見える関係づくりに向けた歩みだし

こうした各機関の力の発揮やつながりの強化に向けて、保健所においても子育て支援策を模索し、親子の交流支援に関わっている保健・福祉・教育関係者同士の顔の見える関係づくりを築き、子育て支援の地域力アップを図ることを目的に、平成 21 年度には「子育て支援フォーラム」を開催し、ほめる子育てのテクニックや愛着形成を学ぶ場をつくりました。続く平成 22 年度の同フォーラムでは、各支援団体の活動報告をメインとし、各団体や支援者、住民の方々と行政の連携による子育て支援の推進に向けて意見交流を実施。

また、子育て支援に関する団体の実態を「丹後の子育てサークル・サロン等情報ブック」として集約し、領域・市町を超えた情報を共有するための媒体も作成しました。

↑子育て支援フォーラムでは学習会や各団体の実践を報告。

↑子育て支援の関係者が同じテーブルを囲み、情報交流。

↑子育て支援を実践する57団体を掲載。

◇「地域力再生プラットフォーム」で更にステップアップ

過去 2 年の支援者向けフォーラムの実践から行政主導でない取り組み方へのシフトの必要性を感じ、「地域力再生プラットフォーム」の手順を確認しながら、行政と民間団体・関係機関が協働する「丹後地域子育て支援ネットワーク」の土台固めをしました。

目　的

「丹後地域で安心して子育てが出来る環境づくりに向けて取り組む各種団体等が、それぞれの役割を認識し、連携と機能を強化することで、子育て家庭や関係者の様々なニーズに対応できるネットワークづくりを推進する。」

取　組

◇室を横断した打ち合わせ会議で取組方法を検討（6～7月）

子育てに関わる事業は保健所内でも保健室と福祉室に別れています。保健室と福祉室の担当者がお互いの業務を振り返りつつ、子育て支援ネットワークの目指すところを確認すると共に、企画振興室の協働コーディネーターと一緒に今後のすすめ方を検討しました。

＜確認事項＞子育て支援ネットワーク事業実施にかかるプラットフォームの目的、ｷｰﾜｰﾄﾞ

①地域のサークル・サロン活動の交流の場、支援者同士のネットワークカアップ

②地域の子育ての実情や子育て支援に課題を把握する機会づくり

③虐待未然防止につながる地域づくり

④発達障害等を持つ母親等が子育てしやすい地域づくり（発達障害の理解の啓発）

⑤地域で活動するサークル・サロンの紹介等子育てを応援する地域の情報の発信

⑥子育て支援者同士のネットワークで丹後地域を活性化

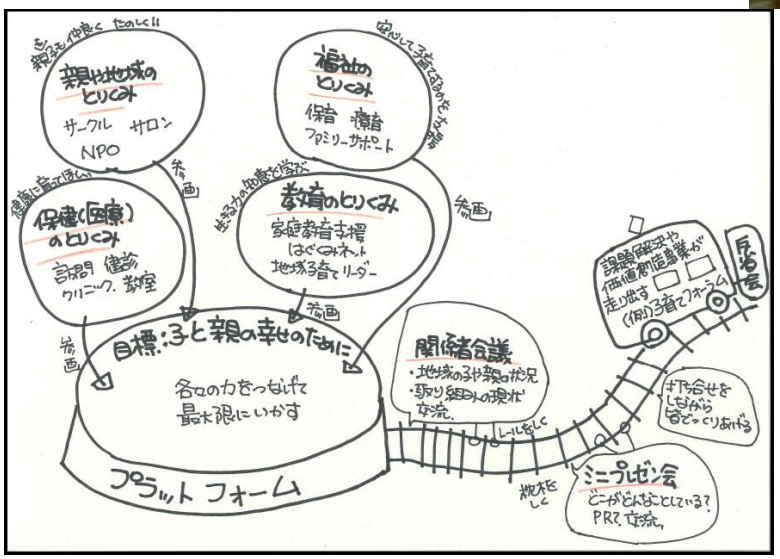
＊「子育て」「発達障害」「虐待未然」→あなたの笑顔・やさしさあふれる丹後の子育て

◇関係者会議の開催（８月）

行政等の関係者がお互いの取組の情報を交流しつつ、子育てしやすい地域づくりを一体となって取り組みへの提案と、協働事業の実施を確認。

＜参集メンバー＞社協、各市町（保健、福祉）
教育（局、委員会）、企画振興室、保健所

＜内容＞
①ネットワーク＆プラットフォーム概要説明
②各機関の子育て支援の取組状況交流
③協働の取組を提案



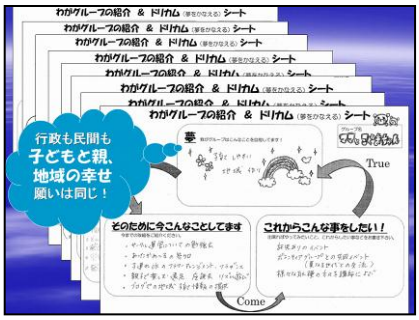
←この図は、プラットフォームの考え方を理解してもらうために、府民力推進課発行の「地域力プラットフォームのすすめ」を参考に丹後保健所で描いたものです。

地域力再生プラットフォームは「駅」と同じように、同じ目的地（共通する課題）向け、行政と民間の垣根を超えて集まり、それぞれが持つ得意分野を活かしながら一緒に活動する中で、新しい解決策や手法を生み出します。

◇ミニプレゼン会の開催（９月）

＜参集メンバー＞子育て支援に取組む団体（「丹後の子育てサークル・サロン等情報ブック」に掲載された団体等からち、意識の高い民間団体へ参加を呼びかけ）、関係機関　等

＜内容＞①ネットワーク＆プラットフォーム概要説明
②各団体より活動をプレゼンテーション（９団体）
③グループワーク「丹後で安心な子育てを進めるために、つながろう！」



↑各民間団体が、それぞれの活動主旨と活動の方向や夢を「ドリカムシート」に記載し、スクリーンに映し出しながら報告。取組み方は違っても、「こんな地域になって欲しい」という熱い思いは共通のものが多くありました。

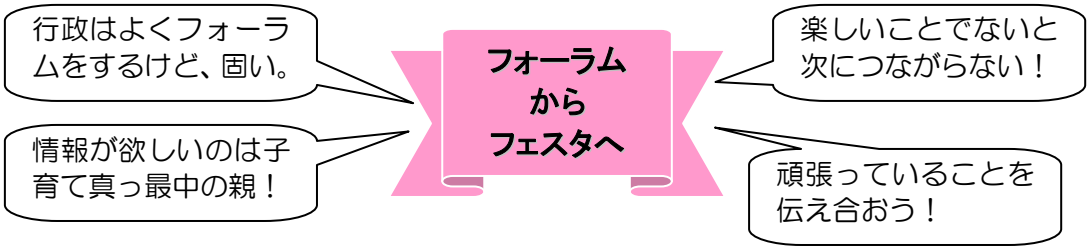
↑グループワークで熱心に意見交流。情報が欲しい人に届く仕組みの重要性や楽しい場づくり等へ意見あり。

◇**協働事業に向けたプラットフォーム会議の開催**（10 月、12 月）

＜参集メンバー＞行政等関係者、ミニプレゼン会に参加した民間の子育て支援団体　等

＜内容＞関係者会議とミニプレゼン会での意見から、各機関がつながるための協働事業の実施に向けて、方針・内容・役割分担等を検討、企画していきました。

＊確認した事項：対象者は子育て支援者だけでなく、子育て世代の親子も含める。
内容は参加しやすく、楽しい工夫をし、相談の場、活動報告を含める。



◇**「子育てフェスタ in 丹後」の開催**（10 月、12 月）

協働事業を実施することが決まったものの、大きな会場は既に予約できない状況にありました。そこで、逆転の発想で「それなら保健所を丸ごと使おう！」と決め、保健所の図面を見ながら各種イベントのレイアウトを決めました。その結果、診察室はキッズルーム兼母親のリラックスコーナー、ロビーはアニマルバルーンづくり、講堂は映画会や丹後ばら寿司体験、会議室は各団体の取組展示、図書室は保育ルーム･･･等に姿を変えてフェスタを開催。制約のある中で、知恵を出しあいながらフェスタを作りあげました。

後日の反省会でも、「情報発信」や「つながり」に関して成果のあるものであることを合意し、民間団体からは「期待の持てる事業」との評価を得ました。

↑保健所を丸ごと利用

↑障害や人の素晴らしさを伝える映画を上映。

↑丹後の郷土食を親子で作りました。

↑日頃の取組をＰＲするコーナーも設けました

↑廊下がコラボレーションステージに早変わり

↑日頃の保健師活動で出会うお子さん達の写真展

効　果

◇「暮らしやすい地域」は共通の願いと認識

ミニプレゼン会ではドリカムシートを活用して各団体から取組報告をし、合わせてグループで意見交流したことにより、団体により実践する内容が違っても、夢は「子育てしやすく、誰もが大切にされる地域」と共通点が多いことを認識し、他団体が身近に感じられる場となりました。行政事業とも協働することへの意識が高まる機会となりました。

◇新しい価値の創造

行政的な企画だけではなく、各団体の知恵を交流することで、単独では発想・実行がしづらい取組案が出され、実践へとつながりました。フェスタの企画においては、民間団体では深刻な内容の相談を対応している実態を知ることが出来、フェスタの一角で相談コーナーを設けることが出来ました。また保健所でも、支援団体の取組をヒントに実施した「ママ達の写真展」ではこれまで個別対応していたケースを地域の方々に紹介することが出来て、今までの保健活動とは異なる形での支援のあり方を見つけることが出来ました。

◇パートナーシップの広がり

企画段階から行政と民間団体が本音を語り合い、アイデアを出し合うことで、お互いの強みを活かせる場を作り上げる事ができました。また、各機関のネットワークが更に繋がり合い、市町村の枠にとどまらない展開が可能となりました。

現　在

◇参画機関同士が新たな事業展開

協働事業を開催後、新たに出会ったメンバー同士で連絡を取り合い、自らの団体の取組に活かされています。あるNPOでは子育てフェスタで鑑賞した映画の上映会を再び企画して各団体に周知を協力してもらったり、他機関主催の行事に共催団体として名を連ねたりと精力的に次に発展されています。また、ある市では子ども達が親と遊べる場（ペップ・キッズ・ガーデン）の運営にボランティアとして協力を得るなどの事例が生まれています。協働事業を作りあげたメンバーが新たなつながりを再生し、実践に変えています。

◇各保健所への予算づけ

子育て支援は単独部署だけで展開するのではなく、保健所等の専門機関がコーディネーター的役割を担う必要があるとして、各地域においても実践することが推奨されています。

振り返りと今後の課題

今回、地域力再生プラットフォームのすすめ方を参考に、民間力が活かしていただけるような運びで協働事業を展開できたことは、更によりよい協働の方法へと発展させていける足がかりとなりました。

ただ、今回は各機関の体制等により、結果的に教育や社協等一部の機関の参画が少なかったので、各機関の事業の協働体制づくりへの工夫が必要と感じています。

また、今回は呼びかけた民間団体は意識が高く広域な活動を行っているところが中心となりましたが、民間団体等もまだまだ数多くあるので、これからどのように協働を広げるかを検討することが必要と感じます。

２４年度も保健所を事務局として継続的に開催することを確認しているので、多くの団体の意見を合わせながら、ニーズにあった取組としていきます。

企画総務課コメント

丹後管内で予選会を行い、10 チームの中から選ばれたチームです。21 年度の「子育てフォーラム」を皮切りに、行政主導の取組から、民間中心の取組へ移行していく様子を、コンパクトにまとめて発表されました。この取組をするにあたり、保健所だけでなく、市・町や教育委員会などを含めた組織横断的な会議を開き、NPO など民間も含めた共通理解の場を作ったことが成功の秘訣ではないでしょうか。

本件事業は、平成 24 年度も継続して実施されるとのことですので、今後の取組についても期待したいと思います。